

平成26年度第1回阪南市子ども読書活動推進会議 会議録

開催日時	平成26年12月1日（月） 午後2時
閉会日時	平成26年12月1日（月） 午後3時30分
会議場所	阪南市立図書館 視聴覚室
出席委員	森本 典子 会長 （阪南市子ども文庫連絡会代表）
	門野 沙奈恵 副会長（生涯学習部学校教育課代表）
	橋本 一郎 委員 （市民公募）
	西野 豊子 委員 （市民公募）
	浅井 妙子 委員 （子どもNPOはらっぱ代表）
	谷本 美由貴 委員 （阪南市みんなの図書館を考える会代表）
	福井 貴子 委員 （泉鳥取高等学校代表）
	下林 奈央 委員 （中学校代表）
	石橋 博之 委員 （小学校代表）
	寺田 有佳利 委員 （幼稚園代表）
	南 智珠子 委員 （保育所代表）
	宍道 恵子 委員 （子育て総合支援センター代表）
	油谷 優公 委員 （福祉部こども家庭課代表）
	小谷 泰代 委員 （健康部健康増進課代表）
松田 ひろみ 委員 （生涯学習部生涯学習推進室代表）	
加藤 靖子 委員 （生涯学習部図書館代表）	
事務局出席者	田淵 万作教育長、井上 真理主幹（生涯学習部図書館）
書記	中山 直子総括主事（生涯学習部図書館）

案件1 委員紹介（委嘱状交付）

案件2 委員長・副委員長選出

事務局提案により、森本委員が会長に。
森本会長の指名により、門野委員が副会長に。

案件3 子ども読書活動推進計画について（概要説明）

事務局 | （別紙資料（別紙1）に基づき、説明）

案件4 読書推進の取り組みについて

- A委員 「第二次阪南市子ども読書活動推進計画」（以下計画という）25頁「【巻末資料】読書週間の定着について」の、最新の数値が出たので報告する。
（別紙資料（別紙2）に基づき、説明）
2年前の調査と比較すると、阪南市の小学生で読書をする児童の割合が増えて全国平均にかなり近づいているものの、中学生の割合はほぼ変わらず、全国平均よりかなり下回っていることがわかる。なお、1日2時間以上読書をする児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国平均を上回っている。よって、読書をする児童生徒と全くしない児童生徒が二極化した状況がうかがえる。
- B委員 つくし文庫の活動状況について報告する。
旧住民センターの2Fにあり、2週間に1度開設。図書館本館からは遠く、周辺に文化施設がない地域。下荘小学校の近くにあり、古くからの住民が多い。開設して27年、地域にもなじんできた。
つくし文庫の特徴として、校区福祉委員との連携がある。他の文庫も最近は地域との連携を深めつつあるが、つくし文庫では10年前から校区福祉委員が「絵本や本のある場での子育てを」を提唱しており、協力している。
文庫から月2回は地域の保育所・小学校（1・2年生対象）・留守家庭児童会へおはなし会の配達をしている。
2年前には文部科学省から表彰を受け、またニッセイ財団からも助成金を受けた。助成金でブックトラックやしかけ絵本、紙芝居、ビッグブックを買うことができた。ビッグブックは持ち帰ることができないので、子どもを連れてきた保護者が文庫内で読みかせをすると他の子どもたちも聴き入っており、見知らぬ親子間の交流の一助になっている。また、小学校高学年の児童も紙芝居は演じたがる。予想外の効用があった。
文庫が地域住民がゆったりと過ごすことのできる場として充実してきたのを実感している。
2年後には箱作小学校と下荘小学校が統合し、下荘小学校校舎が空くので、そこへ文化拠点をつくってほしい、特に図書館の分館を、と市へ要望書を提出する予定。子どもたちが自分で自転車に乗って行けるところにぜひ図書館を。
- C委員 A委員から報告のあった資料「全国学力・学習状況調査」は、図書館で閲覧できる。今年度実施した新たな取り組み等について報告する。計画17～18頁を参照されたい。
取り組み⑥として、子どもの日と文化の日に市民ボランティアの協力を得て例年通りスペシャルおはなし会を実施したほか、新たに9月23日にアニメーションを実施した。
また、従来より自動車文庫が巡回している小学校内にブックポストを設置して本の返却を促していたが、今回新たに「カエルくん」と名付けて低学年の児童でも親しみやすいようにした。その命名記念として「図書館のカエルをさがせ！」というイベントを先述したアニメーションと同日に実施した。
なお、「23日は家庭読書の日」ということで開催したもの。
さらに取り組み⑨⑩として、現在紙芝居の3回連続講座を開催中。
- D委員 「家庭読書の日」スタンプの成果はどうか。
- C委員 集計は取っていないが、毎月5～6人にはプレゼントを渡している。毎月図書館へ来館するはげみになっている様子。

案件5 今後の予定について

- 事務局 本会議の第2回目の開催は平成27年度を予定しているが、今年度の取り組みについては今年度中に報告されたい。締め切りは2月10日。それ以降に実施する事業については、予定での記入を。（別紙3）

案件6 事務連絡

事務局（各委員への名簿作成依頼）

案件7 その他

- D委員 図書館では、個人で読み聞かせ活動をしている人を把握しているのか。
- C委員 図書館の本を利用して活動している人は認識しているが、個人的に活動している人までは認識できていない。今後の課題としたい。
- B委員 高校生では本を読む生徒と全く読まない生徒がいると思われるが。
- E委員 各教科の授業で図書館の本を活用してもらうことで、図書館への関心を持ってもらうよう努めている。また、図書館通信を毎月発行し、全生徒と全職員に配布しているほか、教科ごとの職員室内にはそのカラー版を掲示している。
また、本は読まないにもかかわらず図書館へ日参する生徒があり、そのような生徒は何らかの悩みを抱えていることが多く、コミュニケーションを密に図って問題の自己解決力が向上するような本を勧めるなどしている。
- F委員 先日、学校司書が1校1名配置されている東鳥取小学校の図書館を見学した。1年生も図書館が楽しい場所と認識している様子が見えた。学校図書館に常に人がいることの重要性を実感した。

終了